

『一枚の指針書 /A3版』

作成) 令和7年5月3日
改訂) 令和8年6月20日

● 自己プロフィール

会社名:特定非営利活動法人アップル・シード	役職名:代表理事	創業年2015年	写真
	氏 名:成瀬 毅		
本社所在地 〒489-0935 愛知県瀬戸市福元町44番地			
PR(趣味・特技・座右の銘など)			
趣味・特技:サンスクリット・チベット語翻訳; 座右の銘:「たとえ100人がそうだと言っても、それが正しいということにはならな			

● 会社概要

【業種】 障害福祉
【HPアドレス】 https://seed-of-apple.jp/
【自社PR】 アップル・シードは、「障害」を「社会との関係性」と捉え、「しょうがい」と表記することもあります。 そして障害福祉の仕事、社会と障害との間の「通訳」「翻訳」と自覚し、社会の物差しだけで一方的に障害を排除したり矯正・更生しないことと、逆に、障害側の論理のみを押し通して、多寡(多い・少ない、多数派・少数派)の逆転だけで解決できると幻想することもしません。 また、就労支援やグループホーム、余暇活動、さらにはそれらの障害福祉サービス等を利用するため、市区町村への障害福祉サービス等の計画立案や計画更新・変更、計画のチェック(モニタリング)を行なう相談支援の事業を通して、「しょうがい」ある方の社会生活を多角的かつ重点的にサポートしています。 さらにその考察を深めて、しょうがい「ある／なし」にかかわらず、生きづらい方々が生きやすくなる発信や提言をしていきます。

経営理念

「『納得』人生 創造企業」
【想い・信条】 障害福祉の仕事を通して思うことは、社会生活上の「成功」だけに目を向けて、障害があることで人生の幸／不幸は決められないと私たちは考えます。それは、貧富などの社会的格差などからも言えると思います。 単に社会競争に勝ち、富める者が幸福で、そうでない者は不幸なのか？けっきょく、自分の人生に納得できるかどうか、そこに、人生の幸／不幸はかかっていないだろうか？と考えます。 私たちはそういう考えから、アップル・シードにかかわるすべての人と、「人生の納得」について深く考えていきたいと思っています。

●SWOT分析 外部環境分析と自社事業分析から事業展開の方向(発展する方向)を考える

外部環境	内部環境
【機会】 ・「しょうがい」に起因する「生きづらさ」への世間での認識の高まり。 ・昨今では、行政への障害福祉サービス等の事業所指定に際して、「安易な新規参入」が防がれている。	【自社の強み】 ・自由度ある、柔軟できめ細かな対応 ①「何をすべきか」を問う本質的な、納得いく解決を目指している。 ②「事務的処理」に尽きない対応。 ・利用者さん目線に立った言動や活動を展開している。
【脅威】 ・日本の経済状況等に応じて3年に1度は改定される、「報酬体系」や「社会保障制度」。 ・大手コンサルによる資本家等への傾りや業界大手の挙動によって、行政は福祉の「在るべき姿」の論理を強化して規制するが、そのことで「真面目な中小零細」がやりにくくなる。 ・(障害)福祉財源への極端的で極端な言論・世論。 ・制度本来の「建て付け」とは異なる拡大解釈によるFC事業所等の大量指定を、さらに行政が事後的に規制するという人工的な「いたちごっこ」に手をこまねいている。	【自社の弱み】 ・システムティックな処理が苦手。 ・メンタル不調等の理由で制度のはざまにあり、社会保障という名の「弱者救済」制度から漏れていることでうまく事業所に取り込めない利用者さんに関わりが多く、成果効率的には「容量が悪い」状態になっている。

● 10年ビジョン

・高齢の親としょうがいある子との＜共生型グループホーム＞の創設(「障害福祉サービス」と「介護保険」の活用)。 ・就労継続支援B型利用者の平均工賃を倍増(お金がすべてではないと言いつつ、お金も大事。。。)。 ・地域におけるメンタル課題に起因する諸問題に対して、アップル・シードが真に応えられる組織となっている(単なる「対応」でなく、「納得」を深めることで、事後に「解決感」が残るように)。 ・事務局長が事務方のトップとしてバックオフィスを率い、土業ラ顧問等とも連携し、福祉現場とは分業した＜組織・仕組みづくり＞のうち、AIも活用した事務機能の分化が進んでいる。 ・しょうがい「ある／なし」にかかわらず(実際にはキレイに分けられないことも多く、「グレーゾーン」の領域もあるが)、より良い共生社会に向けて、地域でみなが納得して共生できる提言や促進をしていける。 ・食事・仕事・生活等さまざまな分野の内製化も進めている(代表者の個人事業を含め、最低限は迷惑をかけないくらいの自社生産を増やす)。
--

●経営方針(経営戦略…10年ビジョンや事業展開の方向性実現の為、中期3～5年の期間で道筋を明確にする)

経営理念を実現する具体的な＜10年ビジョン＞に向けた、より直近の中期＜3～5年ビジョン＞の道筋 ・SNS運用等によって、広義の福祉やそれに関する社会的問題について、単なる情報だけでなく、独自の見方を発信・提言できている(当初は利用者さん募集色強い)。 ・就労継続支援B型の＜従たる事業所＞でインド・ネパール料理の飲食業を営みつつ、自法人の福祉施設の食事提供もまかなうようになっている(朝は自施設で提供するお弁当を生産し、食事提供体制加算も取得して、利用者さんのお弁当代を軽減。お昼はインド・ネパール料理のランチ営業をする。その際、朝昼の調理機器等は完全に分けるよう愛知県該当Gからは返答済み) 【戦略的重点方針】 3年ビジョンとしては、名古屋市内の気になる地域での(メンタルなどの)課題に、相談支援や、就労継続支援A型等、ほかの障害福祉サービスとからめて取り組んでいる。
